

幼稚園より

アドヴェント礼拝

11/24 金 9:40~

12/1 金 9:40~

12/8 金 9:40~

保護者会クリスマス礼拝

12/5 火 10:00~

クリスマス礼拝

12/15 金 9:40~

3学期始業礼拝

2018年1/10 火 9:40~

聖書を学ぶ会

2/5 火 9:30~

卒園礼拝(年長児)

3/8 木

終業礼拝

3/14 水

卒園式

3/15 木 10:00~

(教諭 矢部 尚子)

初等部より

感謝祭礼拝

11/21 火 初等部米山記念礼拝堂

保護者のためのクリスマス礼拝

12/8 金 初等部米山記念礼拝堂

アドヴェント・コンサート

12/8 18:30開演

12/8 金 初等部米山記念礼拝堂

オルガン 小林 英之 トランペット 山本 英助

古田 俊博 ホルン 井手 詩朗

トロンボーン 栗田 雅勝 チューバ 岩井 英二

クリスマス讚美礼拝

12/20 水 15:00~17:30

12/20 水 青山学院講堂

初等部チャレコンサート

2018年2/22 木 15:40~16:30

初等部米山記念礼拝堂

ハンドベルクワイア、聖歌隊、トランパ・鼓隊

卒業礼拝

3/7 水 初等部米山記念礼拝堂

説教 小澤 淳一(初等部宗教主任)

6年生を送る礼拝

3/12 月 初等部米山記念礼拝堂

(宗教主任 小澤 淳一)

中等部より

クリスマス礼拝

12/19 火 14:00~15:30

12/19 火 青山学院講堂

特別養老ホーム

救世軍恵泉ホーム訪問

2018年1/13 土 14:30~15:30

保護者聖書の会

(礼拝と聖書の学びがから合いの会)

1/24 土 10:50~12:00

1/24 土 2/28 水 多目的室

(宗教主任 浅原 一孝)



表紙写真
大学コンアンボラー礼拝

宗教改革500年——私たちはどう生きるか

徳善 義和

(日本ルーテル神学校名誉教授)



宗教改革とは

世界史で宗教改革のことを学んだ人は多いと思う。歴史の一齣として学校で学んだらおしまいでもいいのだろうか。世界中のキリスト教会がカトリック教会を含めて、今年はこのことを憶えている。一人の真剣な修道士だったマルティン・ルターが聖書に学んで、当時のカトリック教会全体に、キリスト教信仰の原点に帰ることを呼び掛けたのだった。彼のいた戒律厳守の修道院の修業も、当時の大学の神学も人間第一、神はそれを認めるだけだと考えていた。甚だしかったのは贖宥状(いわゆる免罪符)を買えば、神はすべてを赦すという大々的な「販売」行為だった。ルターはこうしたあり方に反対し、詩編とローマ書を始めとして、聖書の教えに立ち、キリストにおける神の恵みのみが人間を救い、人間は信仰においてこれを受け入れるのだと、当時のヨーロッパの全教会に訴えた。しかし教会の主流も帝国の支配者も大多数が

どう変わりつつあるのか

対立は長く続いたが、聖書が説く真理が説得力をもつ。20世紀半ばの第二バチカン公会議以来、カトリック教会は大きく変わりつつある。ラテン語の礼拝は民衆の言語で行われるようになり、ラテン語訳だけだった公認聖書は各国語で、しかもプロテスタントとの共同訳で読むことができる。合同の礼拝も行われる。去年の秋、スウェーデンのルンドで、教皇とルーテル世界連盟の議長が共に、信仰の交わりの深まりを祈った。今年も日本では長崎で宗教改革500年の合同礼拝をもつ。こうした流れは私とどう関わるのだろうか。

今私たちの間での改革

キリスト教の諸教会がルターの問い・掛けに500年経って、改めて応えようとしている。これは私たちとどう関わるのか。キリスト者ならば、教会のこの革新のただ中に、信仰をもって生き、関わっていくのだ。キリスト者でなくても、人間としての生き方を自ら内にも外にも深め、生かしていく歩みへの呼び掛けを心に聴いていいのではないだろうか。



徳善 義和著
「マルティン・ルター——ことばに生かされた改革者」

シリーズ 地の塩、世の光

file 26

◎各界で「地の塩、世の光」として活躍するクリスチャン



キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

5:17 Corinthians II
コリントの信徒への手紙 二 第5章17節

鈴木 啓之

シロアムキリスト教会 牧師
NPO法人人生やりなおし道場 理事長
府中刑務所教諭師

誰だって人生やり直せる!

17歳でやくざの世界に飛び込み欲望のままに生きた人生の顛末は悲惨なものだった。いくつもの組織に命を狙われ追われる日々、守るべき家族を守ることもできず置き去りにしてきた自分への罪責感と罪悪感。それらすべてが私の生きる力を奪っていった。「やり直したい、どうすればやり直せる?! 誰か助けてくれ!」初めて心の声を言葉にした。手に職もなく学歴もない、あつてはならない前科と刺青、無くてはならない両手の小指を無くした人間、そんな人間が人生のやり直し?! できるはずがない! 現実には耐えられず悪夢にうなされた不安な日々。気がつけば教会に逃げ込んでいた。

業にもするが思いで助けを求めた教会の牧師が聖書を開き私に語ってくれた。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのものに来なさい。休ませあげよう。」(マタイ 11:28)

不思議と素直に受け入れられた。導かれるままに悔い改めの祈りと信仰告白! もう一度私にチャンスを下さい! と泣きながら叫んでいた。

「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(コリント 二 5:17)
聖書の言葉は私を励まし力づけ3つのやり直すための鍵を教えてくださいました。

The Salt of the Earth, The Light of the World



ゴスペルを通じて感動体験

—Gospel Workshopに参加して

飯澤 香・レイラ

(保護者・初等部4年生)



9月23日 大学同窓祭 ゴスペルクワイア

「もう一度、大学同窓祭ゴスペルステージの時間に戻りたい…」ここ数日、そんなことばかり考えています。

ゴスペルのワークショップがあるというチラシを娘が持って帰って来た時、「なんとなくゴスペルやってみたいから、最後は親子で口パクになっちゃってもいいや〜」と娘と2人分の名前を書いて申し込んだ時の私は「その他大勢、なんとなく」という感覚でした。ところが1回目のレッスン終了後には「ワークショップに申し込んだ自分の直感に拍手!」「神様はすごい体験を私達に与えて下さった!」など、プラスの感情がどんどん湧き上がってきたのを覚えています。

約3ヶ月、11回に渡るワークショップは毎回、礼拝堂の十字架の前に置かれたグランドピアノに座る「我らが師匠NOBU(鬼無宣寿)さん」が祈りの後、歌うように語りながらスタート。でも穏やかなピアノの音とは裏腹に冒頭から「喉の奥を開いて、裏声にならずに高い声を出し、曲のイメージ通りに声を出し続けるためのトレーニング」という感じで素人の域を超えた厳しいレッスン時間が続きました。でも、場内からは不思議とマイナスの気は感じられず、気づくと「終わりのお祈りの時間」という感じでした。

途中NOBUさんが与えてくれる世界観を体現できない自分に嫌気が差しましたが、そんな時「一人ひとり大切な役割があり一人でも合っていないと意味がない、皆で創り上げるもの」というコメントを下さり、「One of them」だった私にも「パートを切る悪い責任感」のようなものが

相談

- この前、ひいおばあちやまが亡くなりました。どこへ行ったんですか?
- 人は亡くなるとどうなりますか?
- 天国ってどんな感じですか? (初等部3年女子児童)

ですが、私たちに命をくださった、私たちと大事な人との間に、たくさんの愛があるように見守ってくださいているから

です。大事な人と出会うのは、神さまのおかげなのです。

② 私たちには希望があります。それは、私たちのために

十字架にかかって亡くなられたイエスさまが復活されたことです。復活のイエスさまと

40日間いっしょにすごしたお弟子さんたちも、神さまと

ころへと戻られた大好きなイエスさまにもう一度お会い

することができそうです。私たちはどこにいっても、たとえ亡くな

ても、もう一度神さまの前に集められます。それはきっと、うれしい再会となるでしょう。

③ 神さまは、どんな小さな一人ひとりも、大切にしてくださいます。神さまのみに

守られて安心できることです。私たちがイエスさまに、大事

な、大好きだった人に、もう一度笑顔で会えるところ。それが天国です。

ひいおばあちやまも、私たちも、かならず天国で、イエ

スさまの笑顔と神さまのみに迎えられます。希望にみ

ちて、毎日を過ごしましょう。

WESLEY HALL NEWS

ウェズレーホールニュース 第125号 2017年11月20日発行

125TH EDITION NOVEMBER 20, 2017

あなたがたは、布にくるまると、
飼葉桶の中に寝ている
乳飲み子を
見つめるであらう。



CHRISTIAN BOOKS & CDs

シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

『みんなであうクリスマス』

(絵: やなせ たかし 文: 晴佐久 昌秀)
女子パウロ会

浅賀 満理子

初等部教諭

この本の作者、晴佐久昌秀氏はローマ・カトリック教会の神父をしています。実はわたしが小さいときに家族で通っていた教会の神父さまでもありました。当時から司祭としての働き、他にも詩を書いたり、映画の評論をしたりと、各方面で活躍されていたことを覚えています。この本はそんな晴佐久神父の最初の出版作品です。最初の・と書いたのは晴佐久神父がこの本以降、わかりやすい言葉でユーモアにみちみちる短編集や詩集など何冊も印象に残る本を出版されているからです。どの本も共通して神様の愛が力強く語られています。

「みんなであうクリスマス」の表紙をごらんください。いかがですか? アンパンマンでおなじみの「やなせたかし」さんによる、かわいらしいイエス様のお顔が大きく描かれています。しかし最初のこの表紙の絵を見た晴佐久神父は「この絵のイエス様は、自分のイメージ通りではない…」と思ったと、後のお説教の中で語っています。いわゆる「かいばおけに寝ているイエス様」の姿を思い浮かべていたそうですが、「やなせ」さんの描いた絵はイ

エスさまが大地から太陽のように顔をだした大きな顔。聖なるイエスキリスト、というよりも、あまりにも可愛らしい赤ちゃんのイエスさまでした。

しかし、「やなせ」さんはこのイエスさまのお顔の表紙に強くこだわったそうです。後になって晴佐久神父は、この絵のイエス様こそが「どこまでも優しく圧倒的に大きくて、すべてを超越する、救い主だ」と気づいたと語っています。確かに圧倒的なイエス様の存在感が印象に残ります。小さくても圧倒的な存在であるイエス様の姿に「やなせ」さんはこだわったのかも知れません。

イエス様は小さな赤ちゃんとしてこの世に生まれてきてくださり、私たち人間と同じようにお育ちになりました。

た。イエス様の御降誕が書かれたこの本は、すべて歌になっています。やはり神父であり作曲家でもある塩田泉氏ががすきなメロディーをつけました。音楽が入ると絵本の世界観がまた違ったものになります。わたしの通っていた教会ではこの絵本と音楽を使って降誕劇を行っていました。

昔も今も、クリスマスが近づく多くのミッションスクールや教会学校でイエスさまのご降誕を聖劇でお祝いします。初等部でも60年以上前からクリスマス讚美礼拝として音楽と一体となったページトをおさげしています。今年のクリスマスも皆でよき準備をし、イエスさまの誕生をお祝いいたしましよ。

編集後記

宗教改革500年の大きな節目に立ち会えることに歴史的な重みを感じているこの頃です。クリスマス。神さまが、独り子イエスさまをこの世に遣わされたのは、世を救うためではなく、御子によって世が救われるためでした。今号のウェズレーホールニュースは、イエスさまのご誕生を祝うクリスマスにふさわしく、救い主イエスさまの確信に満ちています。心を開いてお読みください。

Wesley Hall News 第125号
2017年11月20日発行

発行 青山学院宗教センター 学院教務部長 大島 力
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537(ダイヤルイン)
(URL)http://www.aoyamagakuin.jp/center/index.html
(E-mail)agacac@aoyamagakuin.jp
編集 ウェズレーホールニュース編集委員会
印刷 株式会社 万全社

(初等部教諭 野呂 智子)

高等部より

クリスマス合同コンサート

12/16 高等部PS講堂
オルガン部、聖歌隊、ハンドベル部の演奏。

クリスマス礼拝

12/19 高等部PS講堂
説教 関野利寛
(日本福音ルーテル東京教会教師)

ホワイトキャンブ(伝道キャンブ)

2018年1/4-6

(宗教主任 相良 昌彦)

女子短大より

クリスマス礼拝

12/13 13:10~14:30
水 カウチャー記念礼拝堂
説教 左近 豊
(日本基督教団 美竹教会教師)

グローアス・クワイア

クリスマス・チャリティー・
チャペルコンサート
12/15 18:15~19:30
金 短大礼拝堂



(宗教活動センター)

Special Issue : A Special Present for Us



説教

ルカによる福音書 第2章 8節~14節

神さまと出会う場所

よし おか やす こ
吉岡 康子

女子短期大学宗教主任

恐れるな、
今日、あなたは救われた!

真つ暗な野原で仕事をしていた羊飼いたちを、突然、主の栄光が照らし出します。彼らはびっくりし「非常に恐れた」と聖書は伝えます。闇夜のなか突然、強烈な光が自分に当たればびっくりしますし、恐ろしいものです。ありのままの自分をさらけ出すこととまどいもあるし、みじめさや、後悔や、罪ある姿がそのままさらけ出されるような恐ろしさかもしれません。けれども、天使は言います。「恐れるな。わたしは民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」

神さまが私を待っている

主の救いの光が今日、そして今、私たちひとりひとりを照らしているのです。恐れる必要はありません。神さまは私たちを怒り、裁こうとなさるのではありません。愛して、招いて、救ってくださいなのです。たった今、今日からです。いつ

かもっと私が立派になったり、成長したり、努力したらではないのです。

森有正というキリスト者がこのような事を言っています。「私たちが神と出会う場所、それは、親にも言えない、夫にも、妻にも、親友にも言えない私の中にある深淵、闇の只中である」と。まさに、闇の深まるその場所、飼い葉桶で私たちは、まことの光であるイエス・キリストと出会うのです。ここで救い主とお目にかかれるか——小さな村ベツレヘムの、さらに片隅の家畜小屋の中にある、飼い葉桶の中です。つまり、私の飼い葉桶、私の悲しみ、苦しみ、悩みの只中に、私の救いがあるのです。私たちの救い主がそこで、他でもない私を待っておられるのです。

傷が傷をいやす

飼い葉桶の中に、神さまはそのひとり子をくださったのです。豪華なベビーベットのふわふわなお布団の中ではありません。家畜のご飯を入れる(きっと人々の残飯も放り込まれていたでしょう)「おけ」です。わらが敷いてあって、飼い葉桶の中はちくちくと痛かったですよ

う。初めから、イエスさまは傷つけられる人生だったのです。しかし、イエスさまのこの傷が、私たちの傷を癒すのです。傷が傷を癒すのです。傷ついた人を癒すことができるのは傷ついた経験のある人だけです。

「彼の受けた懲らしめによって、わたしたちに平和が与えられ彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた」(イザヤ書53章5節)

この傷だらけの世界を癒すために、ひとり子を十字架で傷つけるとの神さまのご決心がクリスマスです。神さまの救いの決心が、飼い葉桶に眠るクリスマスの幼子として私たちのもとに今、結実しているのです。

このような神さまの愛を受けた私たちにとって、クリスマスは、私と「あの人」、私たちと「あの人々」、そして私と「私自身」との間の敵意と断絶を超えて、和解と本当の平和をもたらすために 今日、決心して一歩、踏み出すべき時なのです。

神様が私たちにくださったおくりもの、それはイエス様。悲しいときも、つらいときも、イエス様の光で、私たちの心はいつも温められています。クリスマスに寄せる思いを、各部の皆さんに語っていただきました。

特集 クリスマス、神様のおくりもの

いつも共にいてくださる方

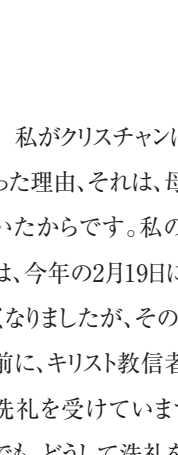
私のキリスト教との出会いは3歳の時でした。キリスト教である母の信仰により、私は幼児洗礼を受けました。その後青山学院幼稚園に入園し、以後大学までこの学院で育ちました。毎日祈る事、讃美歌を歌う事を繰り返しながら、学院生活を送ってきました。毎日の中で神様を感じながら過ごす事は私にとって至って自然な事で、日常の基盤となっていきました。そして大学を卒業した私は、希望であった幼稚園教諭の道を歩み始めました。それまでの歩みを振り返って見た時に「いつか 信仰告白をしてキリスト教になる時がくるだろう」と漠然と考えようになりましたが、「まだ今の準備が十分でないから」と理由を付けて決心しきれずにいました。しかしその気持ちを教会の牧師に伝えたり、職場の同僚と話したりするうちに、未熟な自分だけれども、まずは一歩踏み出してみよう、その後の事は神様に全てお任せする気持ちで一歩踏み出してみよう、と思えるようになり、3年前のクリスマスにキリスト教となりました。

救い主イエス様のお誕生を祝うその日に神様に導かれた事に、大きな喜びを感じました。そして私の気持ちの中で、「いつまでも神様が共にいてくださる。だから今不安になっていたり、思い悩んでいる事があっても、全て神様がご存知だから安心していいのだ。」と思えるようになったことは、心の弱い私がこれから生きていく上で非常に大きなことでした。もうすぐクリスマスがやってきます。今年も幼稚園の子どもたちと一緒にその日を数えて、救い主イエス様のお誕生を楽しみに待ちたいと思います。皆様にとって、神様がいつも私たちと共にいてくださることを喜びに感じながら迎えていくクリスマスとなりますように。



私と母

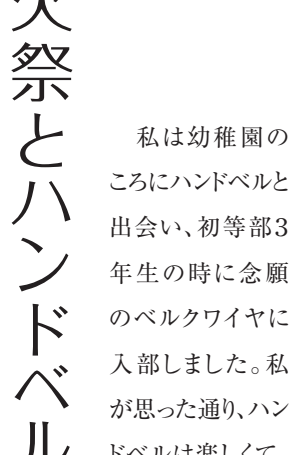
ひきりな
比企 里奈
初等部5年



私がキリスト教になった理由は、母がいたからです。私の母は、今年の2月19日に亡くなりましたが、その4日前に、キリスト教信者の洗礼を受けています。でも、どうして洗礼を受けたのかと、私は、母の死後、考えました。母は、幼稚園から大学まで、カトリックの学校に通っていました。私が通った幼稚園もカトリックでした。私が幼稚園の年中の時に、母は病気で入院しました。その時、私はとても悲しかったんです。何故かという、母は不治の病にかかっていたからです。それから私が10歳になると、計8回も入退院をくり返しました。8回目の入院の時、症状は以前よりひどく、腹水がたまり、歩行困難になって苦しそうでした。亡くなる4日前の2月15日、母は前から希望していた洗礼(病床洗礼)を受けました。私の通っている教会の徳田牧師、長老の中村初等部長先生に立ち会っていただき、私たち家族も立ち会って執り行われました。祖父と祖母、叔母家族たちもとても喜んでいました。数日後、母はとても幸せそうに、天に召されました。39歳の若さでした。亡くなって約1ヶ月後、当時、担任だった黒子先生と、宗教主任の小澤先生に私が洗礼を受けることについて相談をしました。徳田牧師は、いつもまっすぐに、とおっしゃいました。私が洗礼を受けようと思ったのは、ママの一言で、「里奈も洗礼を受けてね。」「幸せにね。」でした。これは母からの少し早めの素敵なクリスマスプレゼントでした。今年のクリスマスは天国の母と一緒にイエス様の生誕をお祝いしたいです。そして、私は、母の分まで生きて、母のやり残した事をやりとげたいです。



ひじりあき
藤井 愛貴
中等部3年



私は幼稚園のころにハンドベルと出会い、初等部3年生の時に念願のベルクワイヤに入部しました。私が思った通り、ハンドベルは楽しくて、入ってよかったと思いました。入部して半年が経った頃、点火祭で奉仕する曲の練習が始まりました。点火祭の大舞台にワクワクしながら、新しい曲も楽しく練習できました。そして本番の日、たくさんの人が集まっています。それだけイエス様の誕生を喜びたい人たちがいるんだなと思いました。そして、この人たちの前で奉仕するんだと実感し、一番緊張する点火の時の曲が近づくと、寒かった体が熱くなり、手が震えてきました。でも、幼稚園から触れている聖書、先生方の説教、教会での分級で聞いたイエス様の話が頭に思い浮かび、この瞬間こそイエス様のご誕生をお祝いできる喜びなのだと気づき、緊張の糸がほどけました。そして心からイエス様に奉仕ができました。本番が終わり、大きなツリーが一段ときれいに見えました。もうすぐ来るイエス様の誕生を大好きなベルでお祝いしています。そしてこれからもお祝いできることに感謝し、ベルがもっと好きになりました。その後もベルを7年間続け、今年ハンドベル部の部長になった私は、ハンドベルは個人ではなく、みんなの音があって一つの曲になり、全員が心を合わせることで初めて良い演奏ができますと、あらためて感じています。だから、私も優しく支えてくれる部員を引っ張り、全員で心を合わせたハンドベルで今年もイエス様のご誕生を喜びと共にお祝いしたいと思っています。



寺岡 二千和
高等部2年

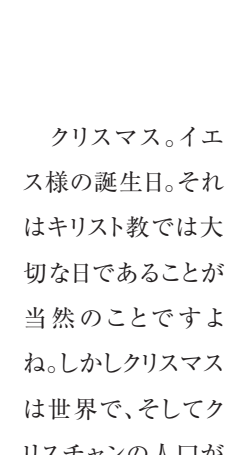
WHAT SHALL WE GIVE?



クリスマスにはプレゼントを贈る習慣がある。私から友達へ、あなたから家族へ、サンタさんから子どもたちへ。なぜ、人々はプレゼントを贈るようになったのだろうか。それは、クリスマスにイエス様という神様からのプレゼントがお生まれになったからだ。だから、私も神様やイエス様に日々の感謝を込めて何かプレゼントしたいと考えている。小学生の時は12月になると、お手伝いや何かよいことをするとスプーン一杯のお米が貰え、それを集めて学校に持っていきホームレスの方々のお米活動に使っていただく「スプーン一杯のお米活動」を学校全体で行っていた。何も考えずただ多くのお米が持っていきたくて、頑張ってお手伝いをしていました。中学生の時は、聖歌隊に入っていたのでクリスマスなどのご奉仕の機会がたくさんあった。高校ではオルガン部に入部し、クリスマスはクリスマスコンサートという形で迎えることになった。これまで無心でやってきたクリスマスのご奉仕だが、今年度は使わなくなった鍵盤ハーモニカを学校に持ってきてもらい、カンボジアの子どもたちに送る活動を初の試みとして取り入れる。困難の中、学校へ通っている子どもたちに音楽の楽しさをプレゼントして贈りたい。自分なりにやってきたイエス様へのお返しとしてのプレゼント。こういう活動以外にも一つ、クリスマスに心掛けていることがある。それは、より笑顔でいること。イエス様は優しいお方だったから、笑うことが好きだっただろう。そう思い、私もクリスマスはより笑顔を手掛けて過ごすようにしている。あなたはどうなクリスマスのプレゼントを考えていますか?クリスマスまでのあと少しの期間、普段とは違ったささやかな良いことを考えていきたい。

本当の幸せ

しおぞ
塩澤 ひかり
女子短期大学 現代教養学科1年

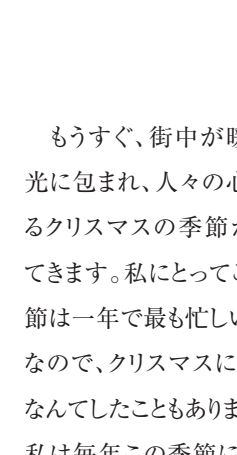


クリスマス。イエス様の誕生日。それはキリスト教では大切な日であることが当然のことです。しかしクリスマスは世界で、そしてクリスチャンの人口が1パーセントにも満たない日本でも毎年必ず盛大に祝われる日です。クリスマスが近づくとなんとなくワクワクし始めて、街中も綺麗にデコレーションされていて、クリスマス当日はみんなすごく幸せそうです。でも、私はもっと幸せな気持ちに包まれています。みんなにとって大切な日と過ごす日、ケーキを食べる日、プレゼントがもらえる日。それがクリスマスなのだと思います。しかし私たちクリスチャンにとっては救い主がお生まれになった日なのです。まさに神様からのプレゼント! イエス様が人の子としてこの世に遣わされ、多くの罪のために身代わりとなって十字架で贖いの死を遂げてくださったのです。2000年語り継がれているこの事実が物語ではないということは聖書を通して知ることが出来ます。旧約聖書の時代で預言されていた救い主が訪れることが新約聖書の時代で成就したからです。キリスト教は長く、多くの国で禁止令が出され、非難され聖書を燃やされ、殉教の死を遂げる信仰者たちがいて、それでもなお広まり続け、イスラエルから遠く離れた島国の日本でも変わらない福音が伝えられています。それがどれだけの素晴らしいことか。またクリスチャン人口が1パーセントにも満たないこの国で福音と出会えたことがどれだけの喜ばしいことでしょう。このことが一人でも多くの人に伝わり今年のクリスマスもたくさんの人が本当の意味でのクリスマスを知ることができるよう祈っています。



ベルと神様と私

みざわ
三沢 佳香
大学 総合文化政策学部3年



もうすぐ、街中が暖かい光に包まれ、人々の心が踊るクリスマスの季節がやってきます。私にとってこの季節は一年で最も忙しい時期なので、クリスマスにデートなんてしたことありません。私は毎年この季節にハンドベルを奏することで、心からクリスマスの喜びを賛美します。私は、ハンドベルを通して神様の存在を知り、中学1年生の時から今日まで演奏を続けてきました。ハンドベルを演奏することは大好きですが、なぜ大学3年生になった今でも、辛い練習を乗り越え継続できるほどの魅力がハンドベルにもっているのかを、自分でも不思議に思いながらハンドベルを続けてきました。しかし9月に福島県会津若松市で東日本大震災の復興コンサートをさせていただいた経験を通して、私はハンドベルの持つ力を、はっきりと感じることができました。コンサートの前日に原発事故の影響で自主避難をされている方から、お話を伺い、震災から長い年月が経った今なお、苦しみの中におられる方が大勢いらっしゃることを知り、心が痛みました。また、それと同時に、私はこのコンサートを演奏者の達成感や自己満足のためだけではなく、お客様と神様への感謝と祈りを込めてお捧げしよう、と決めました。当日は復興への祈りを込めて、私たちが奏でる音色が少しでも皆様の安らぎとなればと演奏させていただきました。満員の客席からあたたかい拍手をいただき、私は神様に活かされていること、被災者の方々の心に、ハンドベルの音色を通して、神様は平安を与えてくださったことを心から感じることができました。また、ハンドベルを演奏するという事は神様が私に下さった、素晴らしい賜物であると気付かされました。今年のクリスマスのハンドベルコンサート(12/16(土)開催)は私の引退コンサートでもあります。キリスト者として様々な奉仕が与えられる、忙しい季節でもあります。皆様もぜひハンドベルの音色と共に神様を賛美し、クリスマスの喜びを待ち望みましょう。

大学より

クリスマス礼拝

12/19 18:30~19:30
火 青山キャンパス
カウチャー記念礼拝堂
説教 高橋 彰
(日本バプテスト同盟関東学院教会教師)

2/3

14:30~17:00
土 相模原キャンパス
カウチャー記念礼拝堂
説教 清弘 剛生
(日本基督教団彌生教会教師)
どなたでも参加できます。

オルガニスト養成講座

受講生発表会
2018年1/20 15:00~16:30
土 相模原キャンパス
ウェスレーチャペル

2/1 14:30~17:00
土 青山キャンパス
カウチャー記念礼拝堂
講座受講の学生は「バイオリアル」演奏発表会です。

オーストラリア・クリスマス・ファミリーホームステイ・プログラム

2/1 木 23 全
クリスマス家庭に滞在し、現地校で英語研修、日曜日は礼拝出席とキリスト教や異文化の体験をします。また、地元の小中高生とも触れ合いの時があります。

(宗教センター事務局)

本部より

クリスマス・ツリー点火祭

~降誕を待ち望む礼拝
12/1 全 相模原キャンパス16:40~
1 青山キャンパス 17:50~
全学院の礼拝として行います。

Art クリスマス Aoyama

12/5 火 13 短大
クリスマステーマとした絵画展です。どなたでもご自由においでください。

全学院教職員新年礼拝

2018年1/10 17:00~
水 カウチャー記念礼拝堂

(宗教センター事務局)